

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL (NTT) 03-3453-2107 (JR) 057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【東労組執行部の権力把握をめぐる内部確執問題の整理！ シリーズ1】

「松つつあんネット」で見る松崎明の见解・主張！

戦後60年に想う 世界に平和を！そのための愛と連帯を！ 2005年9月15日

・・・平和のときに声高に「平和擁護、憲法擁護」と叫んでいたお調子者が、まじめな労働者・労働組合を「守旧派」と悪罵し、今日の日本労働運動と「労働者の党」の悲惨な現実を演出した。小選挙区制になれば、ときの多数派、権力者の党が大勝することは世界の歴史が示しているのであって、社民党などは絵に描いたように小選挙区制に賛成し、みずからを崩壊させたのである。・・・たたかう労働組合は戦後、松川事件、三鷹事件などを通じて、国家権力による破壊攻撃を受けた。私の尊敬する後藤昌次郎弁護士は松川事件の弁護人としての実感を通じて、「浦和電車区事件は松川事件以上の大弾圧ですよ」と事件直後訴えていた。だが、わがJR東労組本部の逃亡者9名は「弾圧は不当ではない」「彼らはクビですからね」「裁判は長期でも闘い抜くというのは背筋がゾツとする」とまでのたまい、みごとに戦前回帰への労働運動への道を猛進しているのである。

まさに「卑怯者、さらば去れ」である。われらは憲法を守る。平和を守る。労働者、そして組合員とその家族の利益を断固として守り抜く。韓国、中国をはじめ、世界の労働者と平和を愛する人々と手を固く握りしめ、闘い抜く。間違った道を再び歩んではならないのである。悪とはたたかわないならば、何も言わないのに等しいのである。世界に平和を！ そのための愛と連帯を！

松崎・本部派の総司令官が、9月15日の時点で、内外多数の人々の目に触れることを意識して「逃亡者9名」「戦前回帰労働運動への道を盲進」「卑怯者、さらば去れ」と言い切っているということは、同氏に「“総団結”“事態収拾”の意思が全くない」ということである。筆者の診立てでは、まさに「殿 御乱心！」の極致！！

これでは、「...ただ明らかにしておかなければならないことは、われわれ（松崎・本部派）がやってきたことは誤っていないということだ。だから詫びや反省は一切するな。それに...奴ら（福原・嶋田派）に、これ以上オレや本部批判をしないと約束させる。ここがもっとも重要だ。...」（谷川忍『小説 労働組合』123ページ）なんて、かつては“稀有の才能”を絶賛されたこともあるご本人ですら到底出来ない無理な注文を出された「ぶら下がり・茶坊主集団」や、青年部の「松崎チルドレン」たちが右往左往するだけなのも当然である。

（その後、なぜか、「松つつあんネット」は5月の連休明けから閉じられている）

《国鉄改革の完成に向けて（宗形明著）158ページ～162ページより抜粋》